

くすりと健康のはなし

薬包紙

第55回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
医薬品委員会薬食同課グループ委員

北川宗正

忘年会や新年会、酒席の多い季節になりました。こんな時に活躍するのは多分ウコン（鬱金）でしょう。家庭のハーブ園でもよく栽培されていて、「出来過ぎちゃったけど、どうやって利用したらいいの」などの質問を時々受けます。曰く「肝臓にいいお茶」、曰く「草木染めの材料」、「色つきご飯やピラフなどの食材に」、なかなか消費できない位出来てきます。

現在日本で用いられるウコンの類は概ね3種プラス1で、秋に白色の花が咲くので秋ウコンといわれるウコン、初夏にピンク色の花を株脇から咲かせるハルウコン、東南アジア原産でやはりピンク色の花を株脇から出すクスリウコンの3種と、紫ウコンともいわれるガジュツ（莪朮）で、中国や東南アジアでは更に多くのものが利用されています。

ここで第1の問題。局方ウコンは「中葉志」などでは生薬名姜黄、これをカタカナで書くとはハルウコンの中国での植物名は

鬱金(ウコン、郁金、宇金)

毛郁金、生薬名片姜黄で、植物名と生薬名が日本と中国では逆になっています。

第2の問題、局方ウコンは根茎を乾燥して用いますが、中国での生薬名郁金は塊根で、根茎とは全く別の物です。多分日本で川玉金といわれるものが中国で郁金といわれるものに相当するのかもしれませんが。

第3に、生薬の性味が、生薬名姜黄や莪朮は味・苦・辛、性温ですが、生薬名郁金は味・辛・苦、性寒とあり、薬性が異なっています。

このように生薬の世界には混乱がみられることがあり、悩むところでは整理が必要です。

ウコンを応用する場合には、閉塞性胆道疾患や、肝硬変で鉄除去療法を受けている人には禁忌ですし、服用して倦怠感や食欲不振、発疹、痒痒、黄疸などがみられる場合には、薬剤性肝障害を疑い、服用を中止して医療機関で検査を受けるようにしてください。また、手術予定の2週間前からは飲まない方がいいでしょう。